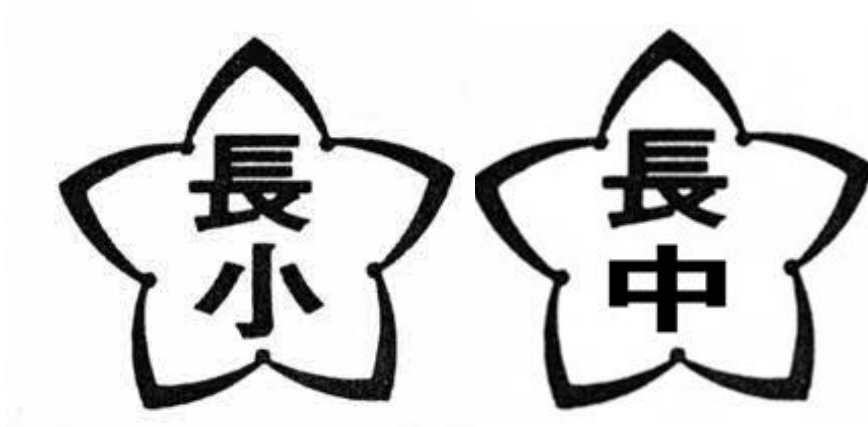


令和8年度
運営に関する計画
(年度当初)



令和8年4月27日
大阪市立長谷川小中学校

1 学校運営の中期目標

現 状

本校は、多様な特性を持ち心理治療が必要なために隣接する長谷川羽曳野学園で生活をしている児童生徒が通う学びの場であり、「学園外唯一の社会的な学びの場」になっている。学校教育目標「生きてはたらく力と自ら学ぶ力の育成」をグランドデザインに掲げ、教職員は児童生徒へのアプローチのスキルを磨いている。また、本市事業の学校規模ポジティブ行動支援(以下、SWPBS)を実施し、大阪教育大学の支援を受けている。

小中学校とも、これまでの教職員の経験知による生活指導をやめ、児童生徒へのアプローチを重視している。授業内容や好ましい行動等を事前に予告し、傾聴・承認・称賛・次への振り返りなどの組織的な同じアプローチを行い、チーム学校による業務分担を組織に定着させ、安心できる教育環境づくりでは一定の効果があらわれている。また、大阪教育大学教育学部教育協働学科教育心理科学部門と連携し、学生の実習指導も行っている。

令和8年度から2年間、文部科学省の教育課程柔軟化サキドリ研究校事業の指定校となり、小中授業を5分短縮して生まれた余白の時間を活用して、小中で探究学習を実施し情報活用能力の抜本的な向上をめざし、GIGA端末の活用率は100%である。また、余白の時間帯に教職員の会議を行うことで、放課後は教職員の裁量の時間として活用する。

課 題

本校教職員は、個々のトラウマを抱える児童生徒と信頼関係を構築するのに半年程度を要する。これまでは、児童生徒のトラウマに対して正しいアプローチができておらず、教職員の経験知による効果のない介入により、教職員への反発、授業妨害、暴言、逆に教職員による甘やかしも行われ、その結果、学校がつらく休みがちになる教職員が増えるなど、その緩和のためカリキュラム・マネジメントが適切に実施できていなかった。

そこで、中教審の論点整理にある「多様性の包摂」を重視し、令和7年度は児童生徒が抱える多様な特性に対して、学校の環境をあわせる組織変更を2つ取り入れた。1つ目は8月末から課題のある中2の学級担任を変更したことで生徒の安心感が向上したこと、2つ目は中1を小6の隣の教室に移動して小中の段差解消を行った。常に小学校教員からの支援が得られるなど、児童生徒の学校生活への安心感と学習規律に効果が表れた。

小中の学校組織を一体化し、探究学習に加えて、生活指導面で定着している小学校のSWPBSを、そのまま中学校でも効果をもたらすように時間をかけて取り組むことで、特に、課題である児童生徒の自己調整力や教職員と関係性等を更に向上させたい。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】****〔小学校〕**

- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を69.0%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を97.0%以上にする。

○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 78.0%以上にする。

〔中学校〕

○年度目標アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 79.0%以上にする。

○年度目標アンケートにおける「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 56.0%以上にする。

○年度目標アンケートにおける「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 56.0%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

〔小学校〕

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 69.0%以上にする。

○小学校学力経年調査における「総合的な学習の時間や各教科等において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 93.0%以上にする。

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 100%にする。

〔中学校〕

○年度目標アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 79.0%以上にする。

○年度目標アンケートにおける「総合的な学習の時間や各教科等において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 56.0%以上にする。

○年度目標アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 87.0%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

〔小学校〕

○小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 76.0%以上にする。

○教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、

- ・教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月 20 時間以下とする。
- ・時間外勤務時間について、月 100 時間以上実施する教員をゼロにする。
- ・時間外勤務時間について、年 720 時間を超えて実施する教員をゼロにする。

〔中学校〕

- 年度目標アンケートにおける「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 72.0%以上にする。
- 教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、
 - ・教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月 30 時間以下とする。
 - ・時間外勤務時間について、月 100 時間以上実施する教員をゼロにする。
 - ・時間外勤務時間について、年 720 時間を超えて実施する教員をゼロにする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

〔小学校〕

- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 67.0%以上にする。(R7 年度 66.7%)
- 小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 96.0%以上にする。(R7 年度 95.0%)
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 76.0%以上にする。(R7 年度 75.0%)

〔中学校〕

- 年度目標アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 77.0%以上にする。(R7 年度 76.9%)
- 年度目標アンケートにおける「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 54.0%以上にする。(R7 年度 53.8%)
- 年度目標アンケートにおける「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 54.0%以上にする。(R7 年度 53.8%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

〔小学校〕

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 67.0%以上にする。(R7 年度 66.7%)
- 小学校学力経年調査における「総合的な学習の時間や各教科等において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 91.0%以上にする。(R7 年度 90.9%)
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 100%にする。(R7 年度 100%)

【中学校】

- 年度目標アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 77.0%以上にする。(R7 年度 76.9%)
- 年度目標アンケートにおける「総合的な学習の時間や各教科等において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 54.0%以上にする。(R7 年度 53.8%)
- 年度目標アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 85.0%以上にする。
(R7 年度 84.6%)

【学びを支える教育環境の充実】

【小学校】

- 小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 76.0%以上にする。(R7 年度 75.0%)
- 教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、(R7 年度・20 時間以下・ゼロ・ゼロ)
 - ・教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を月 20 時間以下とする。
 - ・時間外勤務時間について、月 100 時間以上実施する教員をゼロにする。
 - ・時間外勤務時間について、年 720 時間を超えて実施する教員をゼロにする。

【中学校】

- 年度目標アンケートにおける「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 70.0%以上にする。(R7 年度 69.2%)
- 教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、(R7 年度・30 時間以下・ゼロ・ゼロ)
 - ・教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を月 30 時間以下とする。
 - ・時間外勤務時間について、月 100 時間以上実施する教員をゼロにする。
 - ・時間外勤務時間について、年 720 時間を超えて実施する教員をゼロにする。

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立長谷川小中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>〔小学校〕</p> <p>○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 67.0%以上にする。(R7 年度 66.7%)</p> <p>○小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 96.0%以上にする。(R7 年度 95.0%)</p> <p>○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 76.0%以上にする。(R7 年度 75.0%)</p> <p>〔中学校〕</p> <p>○年度目標アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 77.0%以上にする。(R7 年度 76.9%)</p> <p>○年度目標アンケートにおける「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 54.0%以上にする。(R7 年度 53.8%)</p> <p>○年度目標アンケートにおける「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 54.0%以上にする。(R7 年度 53.8%)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 (小・中生指部)</p> <p>児童生徒と教職員がともに安心して生活を送ることができるように、SWPBSを小・中学校ともに実施し、生活指導上の基盤として持続可能にする。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校ともに、共通したマトリクス(SWPBSの枠組み)を作成することで、校内に一貫したアプローチや望ましい行動を明確化し、教職員から称賛される雰囲気醸成しながら、児童生徒の望ましい行動の増加をねらう。 ・SWPBSの取り組みを通じて児童会と生徒会が協働して、SWPBS協調週間を運営するなど、児童生徒が学校運営に参画できるような取り組みを実施する。 ・月1回PBSPJ(プロジェクトチーム会議)を設け、SWPBSの方向性や進捗状況を把握し共有することで、教職員が協働しながら、時間をかけて生活指導上の基盤として持続可能にする。 ・令和8年度の校内調査「勤務校の他の教職員になじんできていると感じますか。」に対して、肯定的に回答する小学校教職員の割合を91%以上(昨年度90.0%)、中学校教職員の割合を57%以上(昨年度56.3%)にする。 	

<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 (小・中生指部) 好ましい人間関係や信頼関係を確立する集団の育成を推進する。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いじめアンケート（学期1回以上）を、GIGA 学習端末を活用して実施する。 ・ 児童理解、学力向上研修会を年2回実施する。 ・ 学園職員との児童・生徒に関わる連絡会を月に1回実施する。 	
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】 (小・中保健体育) 楽しい学校生活を送るとともに、「生きてはたらく力」の醸成を推進する。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SWPBS を基盤としたライフスキル教育により、肯定的な行動をしやすい雰囲気を作る。 ・ 令和8年度校内調査(新規項目)「昨年と比べ、自分に成長したところはあると思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合をともに75%以上、生徒の割合を75%以上にする。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

大阪市立長谷川小中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>〔小学校〕</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 67.0%以上にする。(R7年度 66.7%)</p> <p>○小学校学力経年調査における「総合的な学習の時間や各教科等において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 91.0%以上にする。(R7年度 90.9%)</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 100%にする。(R7年度 100%)</p> <p>〔中学校〕</p> <p>○年度目標アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 77.0%以上にする。(R7年度 76.9%)</p> <p>○年度目標アンケートにおける「総合的な学習の時間や各教科等において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 54.0%以上にする。(R7年度 53.8%)</p> <p>○年度目標アンケートにおける「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 85.0%以上にする。(R7年度 84.6%)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 (小・中教務部)</p> <p>文部科学省の教育課程柔軟化サキドリ研究校事業に基づき、小・中学校ともに余白を活用した探究学習に取り組み、児童生徒の情報活用能力を抜本的に向上する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短縮して創出した余白の時間を活用して、言語能力・情報活用能力を向上する。 ・児童生徒自らが課題設定し、情報の収集・整理と分析・まとめと表現等の主体的で協働的な学習を通じて、問題解決策を見出していくスパイラルを、前期に2回以上、後期に2回以上実施する。 ・探究学習で得られた知見を教育研究会やフォーラム等で公表する。 	

<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 小・中学校が共同して学力向上・言語力向上に取り組む。(小:生指部・中:教務部)</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動の充実のため、SWPBSを基盤としたライフスキル教育に取り組む。 ・教員全員が年1回以上の研究授業に取り組む。 ・小学校においては、四則計算の流暢性を高める算数チャレンジに毎時間取り組む。 	
<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】 基礎体力の向上を目指し、主体的に運動に取り組む児童を育てる。(小・中体育)</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校においては、がんばりカードを作成し活用する。 ・中学校においては保健体育用ファイルを活用し、配布物を整理させることで、学習内容の振り返りと課題把握につなげる。 ・毎時間の準備運動にバランス感覚や柔軟性を養う運動を取り入れる。 ・夢授業等でトップアスリートと触れ合う時間を大切にする。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>[小学校]</p> <p>○小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 76.0%以上にする。(R7 年度 75.0%)</p> <p>○教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、(R7 年度・20 時間以下・ゼロ・ゼロ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月 20 時間以下とする。 ・時間外勤務時間について、月 100 時間以上実施する教員をゼロにする。 ・時間外勤務時間について、年 720 時間を超えて実施する教員をゼロにする。 <p>[中学校]</p> <p>○年度目標アンケートにおける「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 70.0%以上にする。(R7 年度 69.2%)</p> <p>○教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、(R7 年度・30 時間以下・ゼロ・ゼロ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月 30 時間以下とする。 ・時間外勤務時間について、月 100 時間以上実施する教員をゼロにする。 ・時間外勤務時間について、年 720 時間を超えて実施する教員をゼロにする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>学習者用端末を活用した学習の推進や表現力を養うために、デジタル教材を用いた学習課題や他者へのプレゼンを行う等の授業改善に取り組む。(小・中 ICT)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和8年度校内調査「学習者用端末を活用して授業をしていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 100%(昨年度 100%)、生徒の割合を 54%以上(昨年度 53.8%)にする。 ・令和8年度校内調査「学習者用端末を活用して、自分の考えや意見を伝えたり、友だちと共有したり比べたりしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 82%以上(昨年度 81.7%)、生徒の割合を 70.0%以上(昨年度 69.2%)にする。 	

<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>文部科学省の教育課程柔軟化サキドリ研究校事業に基づき、短縮して創出した余白の時間(週2回6限の時間帯)を活用して、小・中学校教職員の研修会や会議等を実施し、教職員が主体的に意思決定できる新たな組織づくりを進める。(校長)</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校一体となった組織づくりをめざし、水曜と金曜の6限を活用して、職員連絡会・部会・各種委員会・打合せ等の多くの会議や、探究学習・SWPBS等の研修会やプロジェクト会議を設定するなど、教職員が主体的・協働的に研修会や会議の企画運営に取り組む。 ・その効果により、小・中学校で16時以降の教職員の裁量の時間を確保する。 ・令和8年度校内アンケート「学校の教育課題について教職員でよく話し合い、共通理解のもと同じ方向で事に当たっていますか。」に対して、肯定的に回答する小学校教職員の割合を71%以上(昨年度70.0%)、中学校教職員の割合を57%以上(昨年度56.3%)にする。 	
<p>取組内容③【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>長時間勤務の解消に向けた意識を醸成し、実情に合わせた働き方を進めるなど、教職員にとって働きがいのある職場環境づくりに取り組む。(管理職)</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退勤目標時刻を設定するとともに、時間外勤務時間の状況について、毎月教職員に個別に通知する。 ・令和8年度校内調査「自分が勤務校の重要な一員であると感じますか。」に対して、肯定的に回答する小学校教職員の割合を71%以上(昨年度70.0%)、中学校教職員の割合を44%以上(昨年度43.8%)にする。 ・令和8年度校内調査「勤務校の他の教職員からサポートされていると感じますか。」に対して、肯定的に回答する小学校教職員の割合を100%(昨年度100%)、中学校教職員の割合を69%以上(昨年度68.8%)にする。 	
<p>取組内容④【基本的な方向8 生涯学習の支援】 (小：図書担当)</p> <p>各教科における言語活動の充実を図りながら、図書室を効果的に利用する。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校においては、外部(東住吉図書館・藤井寺図書館等)からの講師を招き、読み聞かせを実施する(学期2回)。学習したことを発表する場を作る(年3回)。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	